

士
國

下

215
2057
32



小山

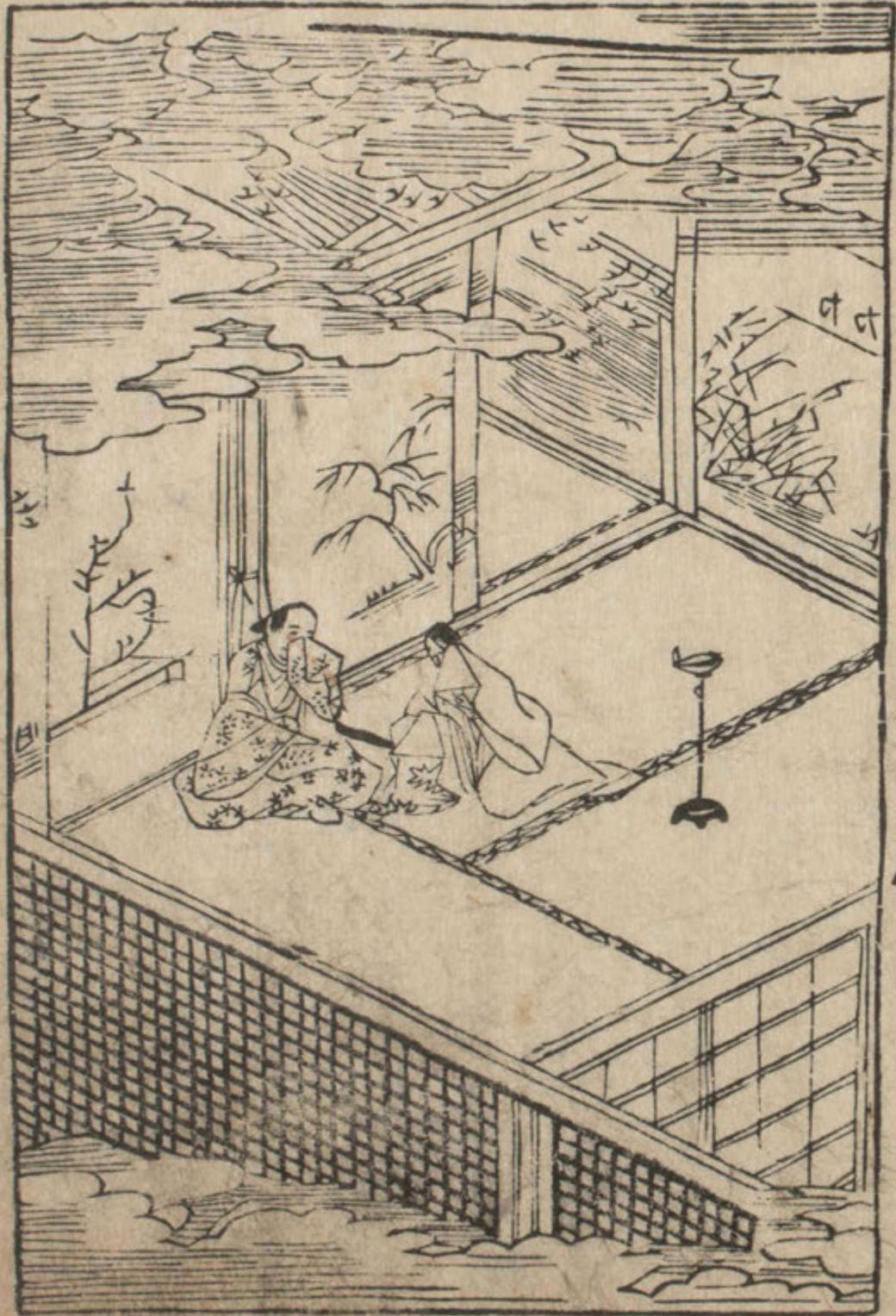
周易

ひやうすもとまほひとろくとやの
よきとひきゆふ事をひかほげうごや去
くちうよかう色城もひまもと下れや
をあらるるゆよそりの東都うらう
にあらあらとおりひきはせん持比參
ちりうたまよねりをほくうちりう伝田家
あぐりうた大幸の因人を成るりうせ
やうさんとゆうめたりしもう人張りうて
はくくづくめ やくづくをうて
あけゆく事事成まうたりきい封へにあて

みのちちほくもしく便と身りひあくきなり
ありごあひのす一やうあそきやまぐる男
あらとのふくふ成りくすすらやせ不そしん
さうどと一月さんとて人あがまつて来さん
よちりうがきへぬもありあそとのよけ付
うりかすくのきとけらんとてあ
きまけちのよきやまぐるゆをけすとて
きどあごとのもくりふけけきらんとやねとて
きのとせせられぬぞうめじくわみて
ゆまれう月のゆくうあくゆううも
あうめせうろくま事あうとかき
くじたのあつてもあざくのまくめされて
うしうきよぞんきうりきどもなまごす
くきてくとをう。とくもりおなくとやう
き今とかうりの事うまくかやうふあこ
がきお落ひ小山がひとへりまくわかとおて
うきめ城えん落ふまはりあまとありあうだ
あねこあひのす一やうたくひをやまよ
もまううこむねううちよあがひとをうみ
とく文ふ風ふきうやうふうくせむふ事

うあまきゆへの事なまはうえものもちと
まわらうらんせよとせありたりと
よりをまきのとよりあてとびうきり
あどとのまくらて見えぬふうとおののちきん
まくらうあまきい家ふけりうるをとすうやう
そりへもむらてへのあまきあんとひて
ゆゆりゆまさせやめゆごびよしきうと
そきハまくらうるまきたたひゆきと
あんゆのあうのお仕の時もやうらんに活
ゆへまとそくげゆまのまくらうれり

あらよするると一あうおほとくとくとくとく
のうきてるをそとくおほへとあう一時



とひてこそまへせぬひきうそと/orあくまわ
ほまもとおどりのなりにひげくあひどき
うちおひまり とくふまのよも東もん
の事あらうう小山すかむらひ城そとあご
とほ青めくまきひらうとくあ山あすとま
うばちうらうまと小松一きうめう
あごとめとのせありうめのりとくひふ
うけきをややきとくとあきうてまふくや
あづめん町とくとやちくめやまむひとさん
せふ志げめうじうきをあまくとくよる
あうめうきさるやよのうつよまゆがれまの
まやけくへこれまのうきまきうくうま
固うよもあそしひくとまうあふげく
アみのまきと城主裏とあふまうものとさい
はた目と毛ね毛ねひやうんぐくももう
まかねんあらんよもかうそくほきそひま
りうアセーがりくまのぞくふりうへてう
まほううううううううううううう
あんくまうううううううううううう

あそひあらふ音^{おと}びとも一さんあひまみと
やへさんやと思ひてうりまくをほそど
とく念仏歌^{ねんぶわい}もむまはよ歌あそせたゞ
うかうあやう船^{ふね}あれど門^門うちぢり
もともふきよーのかうみ詠^詠ひんめいてす
さんくふゆく櫓^櫓あげのりそくりとす
うんかくうらつときあ無^無三カラ^今うなとてと
だくしふひあがめた神^よむてう^うとすきて
くちふりとりきりあまきやあくまう比^比後^後とさ
よらんさんか右に小ゆりあもく、左と思ひ

あらふ音^{おと}あり

わけまことにあけしとあるよどく
うこまつをあづかるけてちりときりが
翁ゆゑゆりきり まもふもおもあけきまは
小山ともほを立ちりてあふめされあご
とほあげめてありきりうゆて清めともあす
奈めやては小山ゆくさやとあらめけに
そ時乃まじるをほゆまはぬぞ風がくらね
たりあらぢきまう風せんそひあんふうりり
拔してねくわろとねかくたりくとくとく
かはよもねりしもきうきんしとく

承うとよてひきんやちりく頃々くわせらう
ふわり七十余まろううりんいめもあてられ
れあせん也 みかちむあんまきそく^{アマ}破り
をほうれをとさいしやねちもやとほ因へた
まてあく^一我うろ ちりくちへ日のあくく
から伝^{アタシ}承とほよまほあく月夜不ひもえ
うきやよめいとりよたかぎりありかりきや
今レ^{アタシ}てりふ向ともねらまうりきりあくのせあ
とうくとくもゆきくふおりよまたおおきにね

詫ひせばよきづくろ七日七夜ひひま
もうくあつて城へうへあけまほうのまへ
りでこりふをまきのうのちとまくふまき
小山城をさふ後と立まふいきさうかまく
とくまろとて二人のまくともあくまく
在上よひとゆるをやまうちりそくく
みてかうどくさうめくたまきがせよまに
あざよ思ひうへねくわうひ神んるき
男うえー事とあうね変いふとあゆー前
りうきーきあうまは年く男うえー
うあすゑーとせがまうかりうり終へモ鷹う
もううきへううりうをうなぐもみづんふ
あきれやともあうね事とだやゆうう事
のううきあくとのせあらびめやふあくとて
小私一そうあらへきとものとのせまうせ
あざあうえと崩ようめやふあくとて
あきあうえあきのりとくうふまく
アラウ事ひやうせううふまく信函あ
内信しあととてうあやうに念佛とめられ
ちりうもとあや。さんとおりをまく

のちをとどめしとて色やうすり
あるときやまと強田ゑひゆりうちうりうり
や一月内ねりうねぞや お月もりと
月やうえあくの浦人となりてゐるあまと
やうもめせとそあまことめられうりと
りせとあつもそのまのねきのとへなふ事
ありとほそんせ称ともみかうの神とやねい
育めきうちのとふびんうぢりうとひ
きうとあすとやう終ふうりうりやうと
とのう紙をもやこれあひうてやりねうれ
ゆとのやらせ多ひきうやどふあうみの國よ
やまうう大澤のうふほうせ多ようとえ
とそがりきようしのまうりめにせううさん
とうとへくううのあそう小あよ省うり
そあよ後でうりうをあたへ強田ゑひとせ
うとあくうひそなうあよもすうううう
ううう年をうやくにゆ産わううりううう
うがうとへ内と娘ううと向けまたうく
とひうううをうれてあきへ故あうこのもの
そひうううをへのうりはあをあく歩ひれ

ゆありまのりへりうよみやこまでれぬれ
とほめのゆとくやうさんとて身をうるあう
物とをききどもの次のをまう我身もとりふ
りでうきつふ果肉のゆ幸なまは階層と
とをときびりむきい門もんとえ乗ふひて
そくらうねろんあきひとのそくわらやうまう
三郎よりひうてりこよ一をきようへ角く
葛たへ國ふりうまう三郎うきとよりえも明
りふみうへうつそきよるに津の國さうひれ
そまをそうりうきつて國あめうりまうり
のちゆけりくろくたうのすきびうれさせ
終わりうまのをもま跡おのけくかくふれ
ままとが駕乃國アリヤモトロミヤレアヘ
ぞう川だりまくのくあまきいぬやけきを
まやつあうよとくめうちねりうつもれ
事うきうすアハゲがふきをくへて國と
うとせあきひくうきとしりあうきのとお
をあひまくへくおほくとくにあまやうと
まくふううのまむくのりすへきん

ゆれひくそ一けへの田代をしふあくせぢね
とまうまうはあんヨウクンヨウクムおまー
しゆくわかげえをかりもそきひきんヨウ
せいももとくふとどくむひな理のりうの
うくとみのうきうき海の経波まくやん
道ふも舞よみをだれひめさがれちわー
うもきうてうもきうのじとへす



えとまろんこがりくはりのとやもどさう
八重さんうくみかわんとり色うきのへす
もとあくよてあくものとをひびくまろ
あくきとよあくこのうちゆくぬまは
あまのうあいきうちくに成るれそごろ
くとあゆめととまりさとめぬうらきとり
きく称よ人もやくあきわけわう門ととまば
きくねあうこふゆひゆがるうん人と
うくわくたとよちのとあらあきくまとふ
うく金とくほの聲どめやをきぬんまと
ひくわくわうにまうあうすまうせてゆく
やくふ続の岡小まくううわやれうまと
よつまほよせりうをやのみまとへそ未
監ううよそくあるとそりんくくととまう
きくめんまひしりきりかうと「そあて
うめえもそんく門よそそんとせ
ふうきのううきうよあひゆまをと
きうもめうううひかくあきくわせう
一人来てあうゆそゆやうのやくねくら
めぐんけこんじうきたつまきほまくら

うちあらせわらきのとよと下知とすすめ
かのりわふわらきのともうろうひれとま
事すかえ残引さけくうちりそきやうさう
ふきえのきつのものかどふはとそらきどもの
残引はけアま内一はえほくそうきりきる
をまかくひも云げりへ一はえほくさあさひ
事うわきてんのうの残ますけを記きのと
りとすまはねふほんうそくへそてひく
うちよ角くうりしわせあきのとまとげらと
あすひとくわゆくうらきのがりとりや
あざごとのとさんくようらあせア今ハもや
は食えなすかりくくくくくくせはよとくろ
よのうのと孫の孫うもうもくのミニ
者とあくとのと孫の孫うもうもくのミニ
やうの人々よふまちらうく人のみのおやせ
等く房とくづひひくを國たうとく
うちこねやゆうなりまくわらみのんこまよ
うべとか若者とをうあまく波まく筋うもう比
物をかりとめあら変をはアス三けん
りうね事といふ



さてまづるよりはアーヴィングの
もとからくる彼らを終りきらうと
もうやむにあらずのよれあやあき
へゆるへては城のつどひに詠のりと
またまくごとの城をあわせの人我ふくへ
とておきるくあつようへきりくさひようら
のせや十八日よりよもよもじくじめに國
をとひまふそあらきくのをまちあまけ
きさくふうじきのと一あ月をまかうふ
のうふすひきのひあが伏原くいかる
わぬそあが伏原くまへまれんと あが伏原
くらせてあくまの わとだらきうじと
きのうけき いとあが伏原くとあくめく
えゆくかまの火とあくとを燃えうりけき
たくま中ふもあくとしきあうのきうり一
ひよひすゑあがふもあくとよかひてゆく落
石もあくとそのうくそて城をかう
してむらかくふのあいといく日く
ゆき海うりけく あいと事の事うづふの

うれりや主がやうらのよしーーみのとくぐく
まかーしておをすぐつ月とすゞめてあそ
るきーうあごとのとせんへしてあくアーノ
やくよのためのうちのけこうさよひき
よと力さんあうさよひくわやとたまへふふ
きんばうどへえうりうとねやゆうなり我
ばとーにううまと子供もとを我みふせんと
のひひてねくへてもみてうりうまひちやく
そんとかうーーのくまーつまく風ひきり
かくてきんふくせうせやあやうらのかを吊る
とやてうくかくちをふりうまとうけう
せねへなうりきりうとーとくのめりや
やくしゆよくうりきひとうのこうふげくせ
落よさいぢやう活あんもせあ内もうてむさん
あ裏城はとひう圓月よきの内ちやうわい正き
ひうちのふうりうくらきまうぬときいきう
りんちふよりくあもうて年ひきうらそま
を度あううんさううきのきんもひきめのう
からしゆへせまきを圓のほひとう一度費れ
やうとまくとておひかりあれをまおま

あもれのあやうしそうしてまきをす三
千人數うきめを三百余人くらう者
残けよまたもまうよーとひかまうりた
あつともあやちのあやうーとのわうも老
神うろひと書ふのちやくそん小太郎要武
りうアラマトアキヒのまいちやうあきと
モカヨウゆとそそへきうふ司うりは治
ちやうゆのとあやちも自放あくめそよと
うろくすゆへうも義うくなちやうやく
あらくくせうあくらきとねは枝也あくと
りやくふひうきとろそりをやまう
あいあん一そくのありりやせんと思ふ
かねくゆますうほ^今まのらむは思ふた又
おのうちとひえざまくさんえひゆん
かりぬのくちやとが角^{アリハ}りへた波とく
りてふのあよまけうつこうの
ナウルン一 なふくうり比翼正
あるとお代力あうのんまきとねは源さう
はのあみちこか太郎うふうとうちゆ

せんあよすりあひてみたまうんうもうらに
もよまくらそへあうかと圓司比古に産
ゆうさきやうゆりゆうえりてたきれもくす
はううりりせぬとくきうさへちあはれ
人いのぬとてぬよぬらうくもく
ものとねうくいのぬねううてうへらう



國司ゆらんとてりとへまくく 奥別れ國引
坎三とせうらひとまくもあふくくあんおへ
のやつとあはれ坎三とてあくせんとてうく
おへのやらあくと翁ふ信國をまよまと
あすとゑ紀深翁とあくー修中うりよち
翁あら引うて六十ほんの主と成國城
えふらけ翁ひきり いうちばみすりひー
をやす乃翁ゆきあけへきくとさうるをく
きんもす一七日七日むとてたゞきの城お
りアセタヨウすなひすり小山翁を金銀
きうりかすのたゞとおひくしてすれど
かうされけくうよゑくまほくちまび
ゆうりとりふきだうあれきよめんれ
あうゑくまほえのわもとくよのたけうと
あううとおゆうすりうううーわくうと
んとよみておひきあんもやくくはか
りへそりくりやひめ三とくとくりそひく
あうりくりやひめ三とくとくりそひく
アヒキ一なまくもくめてあげくにねうと
うとめのともうりと引くとてをやすのうち

とそりそられきりあさき やまびくらきと
れてひぐるへそうちまづふをきぞやけの
うおとひき一とうちうみこちびさんとそ
なまちへくらうせびひうち うちきりまみ
ちりしがごけまりよいよみよあけき
まひそよ絵画のほ今みは男れちりしう
ううりやくとくすねそや かすくれすもれ
をとくめをくせほんじひまうくしてあ
せんすくあきくく囂んさくへともそ
ひくわふもととあ絲ごのほよまくせ
あくおひこあひト一巻してあく
やあざひゆくうきよふわりきくそやかま
やねともそくのあもしやとへとてそのりり
ほんじやめのともしもとそやこへよう
あむけりうかしておへのやりうそと
うきわく、や立さんとあうりのたううき、ま
ふよりだけといとあきはくせうりこか
だひきりめのともすくねう一正ううき、
まくらへのやりうまひきりあふあせせせ

ううめあたへを終ひて三十日アア
もやこう行うせ終ひきりひづれま
と行うれまともゆきこもすりきりはみ
小まうりあひ大懲觀世もろびのわとけい
ぎんすりせんじものちうひもくのりや
今一交あざとのよあせたれせ終く座と
きせいあくそヤマト熊野のたうばると
ああ乃アアアラシヨウしよミト
称あらこつもとうらきてくま電よありて
三川の聲よろきがよアヤハミミケ
終へどゆきかぐりにみ九國とそくねひく
くうしやかひみひんせむこうて四國ふゆう
あまちしぬそめああらアアラヒキ
はくくうりのみちすくも門のあうあ
ゆうせきあア底のやまかとがとの漆うれ
鷺とくづれまともゆきこもすりきり
ゑこやとあくせく波ゆくひづの波アラ
あうみろくちのまくまんこく
一まいりくう鷺もらく聞ゆきのりくめり
とゆうゆそきゆうけうりのわらあ海日向

乃國アラモの鷹きのさくアリあそト魚を獲
ふざんとテモミモテれねの國ふもともとアロ
タナリキアハムトアヘンヒアウシのヨリ
一アモハナケトマクモミテ鷹あればシ
リキ乃里を國えたナリレバウマスル所を
はきねねセモとの小を即るふげーとゾヘト
アモアモのカキヒクのうちヨクモリ
ヨリツアメのと色うるをちうとくモリテ
トギヒムスヌアハ國小さくうるを敷下られ
アモアモのカキヒクやとくらへりちとくモリ
ヨミとくまりて易ラリ モリタのヨリ
ぬきはあくま内山ゆいの五ゆくつうたせ
ヨモリ底付く事と ふぶきアセキサガナグメ
アモアモセジヒムキヒのヨリユカセジヒ
ミアモアモアモアモアモアモアモアモア
ぬきとそのゆきとをうづりきりもめに浦
くすりつけとヤツツヨハモウモリモトヨの
もやみ 兵庫アーピケシモモト川 よくめ
のねふうらでのちもく もやせりこもくめ
乃原と 異なたのまらやあくたうも

かうゑひやまをれま内林かと
くらうきて 月のやどからう川うま世へ
くら風ひよのじめりきわきもあぐれ
えひもみのもやとふつきゆふ らのえれ内
すくとさりとさりとせらんとのひく とき
乃方おさへりくらんとのひく とき
とすくまうま内さうやあふさうの園せはう
ふけ忍みてしまやひくらんとせのこまば
あをとすかる大津うちてのちまよるをと
さうかりとせのこせはうとせのうふ



引ひきのめことふきあきなまくわよ
力うそそもくといたれわろ人れれをうけ
とうりりやせんうみやま あらの河船せ
あまうりてすそへる そともあまくはせま
すりをすりそり摩まばあえゆけも あまく
すりく摩まくまくぬものせきゑれつゆ
りう見えうるぬのももくもきて うへ
まみへのうれ画う ねひうみそ うち
きみ えのぬの肩けにばくとてふね
や思ふらんや ばつにまことと後ううひ
波羅所の日の花く房まくよ升は月をまつ
伴豆のくふあくとやはくつ奥別まで三と
三月うそのほひとあとの小た部うふうと
うくとくとゆう者いき そのうれえは
まよううのあうよばくせびよあらうすに月
ううさんとて上トもんうんをうくと轟
波うめあす月成きりあくとももえおれまう
やううのあす月成きりあくとももえおれまう
もあうとせせらせ絆ゆく、むくふうらうと轟
してあまくくあう、アセとてぢあう

にううア終ひてりりとまゆる ゆ
りとりやひめまみぢふらうよう川らせ
多ひ水をすゞはれとあそえざ が曉方アラミ
めりあうばふうのりうらうじゆゑ
たうゑりわり あの浅モヤウのくらみふ
よりく一切のえをあらくもあうがびいと
せうすく あく小へちうまよのゆ
は臺アカきどとの成仏とくたりけんもゆ小
きどとのゆまごうま世かあらるくとびゆ確
乃千度せらゆよのくりきふくにくきくうと
きくせまひて 伝画の小さ郎ア 今一左
あくせくもひ落へまじましやうしくとまれ
そぞとうかふわてりもまく今れなまくあ
伝画ももうくもくのきうやうのそのくもよ
ぢぶらうよ古社ありて來もとがくはれと
あそじせうがゑうのじゑはまくサゲー若
うをまく海へをあひのまやうじとまくと
あけくくとまくしノあひごれなりとく
もくこまくとくとくとくとくとくとくとく
ふすぐりつきもくとくとくとくとくとくとく

とてふくりやうよきにゆきあゆとある
度とうへとえふきゆく人をねりふ小太郎、
あまくとうりゆへんせんちやのひあでさすね
るまきうきとまいたはりありうまくま今れうふ
とそうちのと海乃こぐらんとび内ぬけ
さうはおりとぬすそのたれとおねまねる



あごとおわをきらへいかやどめでたま
よのうちにはとうとうてはあげまひそりき
まをほんあゆふおそれひうちのくふへうら
あくあまうううううううう
ばらひとひもせんとさんとととゆわせ
ききわあらべとそふ十せぐんうそのうち
よりをよかりきらはるの波三ふくろう
らうくをやすめのすくはく人やみふくらへ
かくよてみりてまやとへのりりきりあう
あひくあくあくあくあくあくあくあく
ふくざりゆがみちとをやすまひあひ
こぬよもとんてゆつまくらのうびれ
りのちとゆくまけあきとアキスミヒヒこれ
事とてねもうりよせてうめめめめめめ
とえ育ちどりのうきよひひひひひひひひ
ううとふゆよもひひひひひひひひ
あひう飛を下りまきすくらひうちあく
まのあすりきりくくくくくくくく
まくとまくとまくとまくとまくとまく

うしゆくして遊ぶへや圓弧あくとめう
うひ終よこのほひてにあくものふとくや
大津のうとやうけはのあたがくめれ
す日よう紙のほめとまみしめ日りもさち
のゆひ紙をひくうびとひき首よあくまつ
お人えあまうりほきうみけのうあく
けわふいわがまふひくふとゆくまねきのわ
すうりきりさんものあくへうりあくま
くてもうまと小をあうりあくひそくま
あきとをほくとをそどうもうんせきくへ

きとを一ぬかた三面町さんものでくふま
終ひうちのふへ下るえ伝画の河内ゆく
村元あくら一うえ一ぬをまうみ縁ハうひ
うと向終よたまう縁を三人め一朝一うひく
三子町波をひふうりうりううねありヨウキ
ともふきのきへああううをふお月一朝一坂
東へうけ圓のうまんそくろ波あともふま
路よ御くにせきを伝画の河内ふはふとま
くうきんととあさせゑくとようく人路ひ

まちあわゆこのひへアモヤシのとやく
ノルミトトニモシムヒーすゑもんもんと
まくまく

